

行政職員と民間人の信頼関係の構築を！

【事業の概要】

市域全体の活力を牽引すべきまちの中心部において、低未利用地が増加し、都市のスポンジ化が進行しています。そのため、竹原駅前エリアに関わる方々と任意の勉強会を開催し、社会実験で公共空間や低未利用地等の使い方を確認しながら、居心地が良く、歩きたくなる空間を創出し、エリア全体の価値向上を図ることを目的に取組を推進しています。



【担当者インタビュー】

竹原市都市整備課 伊藤大輔さん



社会実験の様子



竹原駅前エリアウォークブルビジョンの策定

Q. この取組におけるあなたの役割・担当は？

勉強会のメンバーとして民間と一緒にあって、日常的なまちづくり活動の企画・運営・調整・許認可に取り組んでいます。

Q. 一番苦労した点、一番やりがいや楽しさを感じた点を教えてください。

社会実験の企画・準備・設営・調整等には苦労もありますが、多くの来訪者、楽しく遊ぶ子ども達の笑顔を見ることができ、「素晴らしい企画！」と感謝され、地元の方々との協力関係が築けたことです。

Q. あなたにとってウォークブルに取り組む「最初の一歩」はなんでしたか？ どうやってその一歩を踏み出すことができましたか？

勉強会のアドバイザーである山口大学の宋准教授と一緒に竹原駅前を視察した際に、ポテンシャルがあると指摘頂いたことがきっかけです。外部のひとから、エリアの魅力を発見してもらうことに大きな勇気を頂きました。

Q. 全国のウォークブル担当者へ一言！

最初の一歩を踏み出すためには相当なエネルギーが必要ですが、行政職員が地域に出て汗をかくことで信頼関係が構築され、ウォークブルなまちづくりに対する理解・協力を得ることができると思います。

是非、社会実験という魔法のツールを使って、民間+行政で一つのものを作り上げる取組にチャレンジしてみてください。「苦労して、苦労して」企画・準備・実施・調査をすれば、必ず良い結果が出ると思います。